

「請求代行で〇%削減できます」と言われたとき、その率が掛かるのは請求総額ではなく**割引対象額**という分母です。このシートは、手元の請求書からその分母を出し、提示された率が実際には総額の何%になるのかを出すためのものです。自動計算版（Excel）は <https://costcompass.jp/invoice-checksheet> から取得できます（登録不要）。

AWS | 割引対象額を出す

	項目	金額(USD)	請求書のどこを見るか
①	請求総額（割引前の Charges）		Charges の合計。Credits / Discount を引く前の金額
②	Savings Plans 適用額（マイナス行）		Savings Plan (Charges covered by Savings Plans) の絶対値
③	Savings Plans コミット費用（プラス行）		Savings Plans for AWS Compute usage 等。All Upfront だと 0.00
④	Private Rate Card 対象サービスの Charges 全額		★マイナス行の額ではありません。個別レートが効いたサービスの Charges を丸ごと
⑤	AWS Support		Developer / Business / Enterprise の行
⑥	AWS Marketplace		Marketplace 経由の購入分
⑦	その他の対象外（Credits・コミット型バンドル等）		CloudFront Security Bundle のようなコミット型商品など
	対象外の合計（②～⑦）		
	割引対象額 = ① - (②～⑦)		これが「割引が掛かる分母」
	対象額比率 = 割引対象額 ÷ ①		実案件9件の中央値は 61.6%

実効削減率 = 提示された割引率 × 対象額比率 例) 提示10% × 対象額比率61.6% = **総額に対して 6.16%**

▲ **Reserved Instances** を持っている場合、このシートだけでは分母は確定しません。RIのカバー分は \$0 で計上されるため、「本来いくらだったか」が請求書に残らないためです。コンソールのRI画面、または Cost Explorer の料金タイプ別（RIFee / Usage / DiscountedUsage）の内訳を確認してください。

見落としやすい3項目

- **SPのコミット費用は「プラス行」** — マイナス行だけを外すと、コミット費用が対象に残り削減額が過大に出ます（実案件で最大14.4ポイント）。
- **Private Rate Card は差額ではなくサービス全額** — 差額だけを外すと、実案件では外すべき額の4分の1しか外せませんでした。
- **Support と Marketplace** — 利用料そのものではないため、一般に対象外です。金額は小さくても忘れられやすい項目です。

Google Cloud | 割引対象額を出す

	項目	金額	どこを見るか
①	請求総額（費用ベースの総額）		費用テーブル／請求レポートの合計
②	CUD（確約利用割引）でカバーされた分		コミットメントで消化された利用分
③	AI関連（Vertex AI 等・割引率0%のSKU）		率が乗らないため対象外
④	Marketplace		Marketplace 経由の購入分
⑤	その他の割引率0%サービス（Maps API 等）		提示条件で率が0%になるサービス
	割引対象額 = ① - (②～⑤)		
	対象額比率 = 割引対象額 ÷ ①		

※ Google Cloud の割引はサービス・SKU単位で率が決まるため、この計算は「率が0%になるものを対象外として数える」近似です。厳密にはサービス別の率を加重平均します。

参考 | 実案件9件の対象額比率（2026年・当社実測）

61.6%

9件の中央値

46.2～100%

レンジ

7 / 9件

100%未満だった件数

案件	クラウド	比率	分母を削った主因	データの確度
H	Google Cloud	46.2%	CUD、AI関連	推計（幅は30.0～50.5%）
A	AWS	49.3%	PRC、SP	確定請求書
G	Google Cloud	54.8%	CUD	確定コストテーブル
F	AWS	59.1%	SP、Support、コミット型バンドル	確定請求書
I	Google Cloud	61.6%	AI関連（Vertex AI）	確定請求レポート
D	AWS	66.7%	SP、Support	確定請求書
E	AWS	72.9%	SP	確定請求書（幅は50.3～72.9%）
B	AWS	100.0%	（除外なし）	月中実績の月次換算
C	AWS	100.0%	（除外なし）	コスト＆使用状況レポート

※ n=9 は少数です。中央値61.6%を業界の平均像として扱わないでください。請求内訳まで開示いただけた案件＝コスト削減の検討が 具体的に進んでいる会社のため、SP/RI/CUD導入済みの比率が世の中の平均より高い可能性があります。9件中2件は請求書だけでは確定せず、幅でしか出ていません。同一顧客でも月次で16.5ポイント動いた例があるため、1か月分の比率を固定値として扱わず、3か月分を並べることをおすすめします。
※ 件別の内訳と算定手順: <https://cloudcut.lei-inc.jp/blog/discount-base-ratio-9-cases>

ご利用にあたって

- ・本シートは情報提供を目的とした簡易計算ツールです。計算結果は概算であり、特定の契約・解約・乗り換え等の判断を保証・推奨するものではありません。
- ・除外項目の扱いは、クラウド事業者・リセラーの契約条件により異なる場合があります。実際の見積は各社の提示条件をご確認ください。
- ・社内でのご利用・改変は自由です。再配布の際は出典（CostCompass by CloudCut / 株式会社LEI）を明記してください。
- ・お問い合わせ: <https://cloudcut.lei-inc.jp/#contact>